

第1章 交流の足跡

| | 北野 | ケント | ケント | 北野 |
|-------------|--------------------------|---|-------------------|-------------|
| 1990（平成2）年 | 3月 | 教員 篠原（柔道指導） | 加納治五郎書 | 北野へ贈呈 |
| 1991（平成3）年 | | | 7月 | 校長 ウィルソン |
| 1992（平成4）年 | 3月 | 教員 2名 | 6月 | 教員 3名 生徒 2名 |
| 1993（平成5）年 | 3月 | 教員 2名 生徒 4名 | 6月 | 教員 1名 生徒 1名 |
| 1994（平成6）年 | 北野高等学校国際交流基金創設 | | | |
| | 3月 | 教員 1名 生徒 2名 | 6月 | 教員 1名 生徒 2名 |
| 1995（平成7）年 | 3月 | 教員 1名 生徒 5名 | 6月 | 教員 1名 生徒 2名 |
| | 12月 | 年賀状・クリスマスカード交換 | | |
| 1996（平成8）年 | 3月 | 教員 1名 生徒 4名 | 6月 | 教員 1名 生徒 2名 |
| 1997（平成9）年 | 2月 | 両校生徒間文通 | | |
| | 3月 | 教員 1名 生徒 4名 | 6月 | 教員 1名 生徒 4名 |
| | 12月 | 年賀状・クリスマスカード交換（北野生34名 ケントウツト生 約30名） | | |
| 1998（平成10）年 | 3月 | 教員 1名 生徒 4名 | 姉妹校提携調印（調印日3月24日） | |
| | | | 6月 | 教員 1名 生徒 3名 |
| | 12月 | 年賀状・クリスマスカード交換 | | |
| 1999（平成11）年 | 3月 | 教員 1名 生徒 4名 | 6月 | 教員 1名 生徒 4名 |
| | 12月 | 年賀状・クリスマスカード交換 | | |
| 2000（平成12）年 | 3月 | 教員 1名 生徒 4名 | 6月 | 教員 1名 生徒 4名 |
| | 12月 | 年賀状・クリスマスカード交換 | | |
| 2001（平成13）年 | 3月 | 教員 1名 生徒 4名 | 6月 | 教員 1名 生徒 4名 |
| | 12月 | 年賀・クリスマス メール交換 | | |
| 2002（平成14）年 | 3月（2001年度）派遣は国際情勢等を考慮し中止 | | | |
| | | | 6月 | 教員 2名 生徒 9名 |
| | | ケント地区高校バスケットボールチーム （阿武野高校創立20周年記念行事関連） | | |
| | 12月 | レター交換（オーラルの授業） | | |
| 2003（平成15）年 | 3月 | 教員 1名 生徒 7名 | 6月 | 教員 1名 生徒 4名 |
| | 12月 | レター交換（オーラルの授業） | | |
| 2004（平成16）年 | 3月 | 教員 1名 生徒 5名 | 6月 | 教員 1名 生徒 6名 |
| | 12月 | レター交換（オーラルの授業） | | |
| 2005（平成17）年 | 3月 | 教員 1名 生徒 5名 | 6月 | 教員 1名 生徒 4名 |
| 2006（平成18）年 | 3月 | 教員 2名 生徒 5名 | 6月 | 教員 2名 生徒 4名 |
| | | | （内教員1名は私的訪問） | |
| 2007（平成19）年 | 3月 | 教員 2名 生徒 5名 | 6月 | 教員 1名 生徒 4名 |
| 2008（平成20）年 | 3月 | 教員 2名 生徒 5名 | 6月 | 教員 1名 生徒 4名 |
| 2009（平成21）年 | 3月 | 教員 2名 生徒 5名 | 6月 | 教員 1名 生徒 4名 |

第2章 滞在日程

| | | |
|------|----------|--|
| 第1日 | 7月8日(水) | Northwest 84便にて関西空港着 阿武野高校各ホストファミリー出迎え |
| 第2日 | 7月9日(木) | 阿武野高校ステイ |
| 第3日 | 7月10日(金) | 阿武野高校ステイ |
| 第4日 | 7月11日(土) | 阿武野高校ステイ |
| 第5日 | 7月12日(日) | ホスト交代(阿武野高校 北野高校)六稜会館1Fにて |
| 第6日 | 7月13日(月) | 北野高校ステイ 午前 オリエンテーション 昼休み 生徒集会にて紹介 |
| 第7日 | 7月14日(火) | 北野高校ステイ |
| 第8日 | 7月15日(水) | 北野高校ステイ |
| 第9日 | 7月16日(木) | 北野高校ステイ |
| 第10日 | 7月17日(金) | 北野高校ステイ 放課後 送別会(六稜ホールにて) |
| 第11日 | 7月18日(土) | 終日ホストファミリーと過ごす |
| 第12日 | 7月19日(日) | 大阪市内観光(大阪城 海遊館) Northwest 16便にて関西空港発帰途に |

第3章 交流の日々

1 Bonnie & Aさんご家族

Bonnie とのかけがえのない時間

1年4組 A・Rさん

初めてのホスト それは、とても新鮮で驚くほど楽しいものでした。

今回ホストになろうと決心した理由は、以前 NZ へホームステイした経験があり、その時ホストファミリーの方々がすごく親切にしてくれたからでした。そのおかげでとても充実した日々を送ることができ、私もそんな歓迎ができればいいなと思ったのです。

Bonnie が日本に来る前、メールでコミュニケーションをとっていた時、私がまず驚いたことは、最初、日本語でメールがきたことでした。意味がわからないところがあったので、返信の中で確認をしたら、それからは日本語と英語でメールがくるようになりました。思っていた以上に日本語が上手く「英語をきちんとしゃべれるだろうか？」といった不安は少し小さくなり、期待がますますふくらみました。

そしていよいよ Bonnie との初対面。会う前は少し緊張しましたが、会うとすぐに「Risa！」と言って寄ってきてくれて、とても嬉しかったです。Bonnie は中国系アメリカ人で、私より一歳年上の16歳の女の子。少し人見知りがありますが、喋るとすぐにうちとけてくれました。

それから一週間は、忘れられない日々となりました。回転寿司に行ったり、奈良に行ったり、海遊館に行ったり・・・そしてなにより、毎日を Bonnie と一緒に過ごすことができました。

姉や先輩といっしょに撮りに行ったブリクラ アメリカにはないという事実に衝撃!!!ラクガキや撮影を楽しそうにやっていて、それを見た私もなんだか嬉しく感じました。Bonnie の大好きなカラオケ 2日連続で行っても飽きないぐらい、大好きだったようです。教科書にもでてくる井上陽水の「少年時代」から、宇多田ヒカルの「Flavor Of Life」など様々な日本の曲を歌うことができ、すごい知ってるんだなぁと驚き、感心しました。こういった普段友達と行って何気なく過ごすような所でも、Bonnie がいることですごく幸せな時間となったのです。

そして特に忘れられない思い出となったのは帰国する前日の土曜日です。その日は朝から奈良へ行き、その後ショッピングモールへ行きました。ショッピングモールの中

のスーパーでは、大量のカップ麺を買っていてとても驚きました。何でも弟が好きで、おみやげにするんだとか(笑)。その後、いっしょにクレープや卵せんべいを食べ、ブリクラを撮って帰りました。「クレープ食べる？」と聞くと「うん!!!」ととても嬉しそうで、パクパクっとすぐに食べ終わっていました。すごくこの一日は楽しかったようで、帰るときも満足そう。家に着くとペラペラと今日のことを喋っていました。

晩御飯の前には、Bonnie がアメリカでも浴衣を着られるように、着方を姉や母が教えてくれながら着付けをしてくれました。着付けをしている最中も嬉しそうで、目が輝いていました。その後、私と姉と Bonnie で浴衣をいっしょに着て記念撮影。Bonnie の誕生日プレゼントとしてあげた少し黄色みがかった白色の、朝顔の模様が入った浴衣は、Bonnie にとても似合っていました。2, 3 時間迷って決めた甲斐があったなと嬉しかったです(笑)。Bonnie がホストファミリーとして受け入れた北野の先輩からのプレゼントである花飾りをつけたり、自分で買った扇子を持ったりするなど、とても楽しそうにしてくれました。

浴衣が気に入ったようでそのまま夕食。デザートにはかき氷を食べました。イチゴジャムをのせたイチゴ味のかき氷や、ワラビもちをのせた抹茶味のかき氷など、色々な味を作り、とっても嬉しそう。氷を削るのが楽しかったようで、4 杯ぐらい作っては食べ、作っては食べとしていました。本当に楽しくて、笑顔が絶えなかったです。

そしてついに、お別れの時間・・・もう帰っちゃうんだと思うととても悲しくなり、もう少しいっしょに居られたら・・・そんな思いでいっぱいでした。

短かったけれど、思い出がたくさんつまった 1 週間。こんな素晴らしい時間を Bonnie と過ごせて、私は本当に幸せでした。ホストになるかを迷って決めた決断だったけれど、あの時やると決めてよかったです。Bonnie や先生、家族に心から感謝したいと思います。本当にありがとうございました。これから、ホストになって得たたくさんのことを、様々なことに活かしていきたいと思います。(See you again, Bonnie)

Bonnie を迎えて

A さん (保護者)

はじめりは娘が中学校 3 年生の夏。池田のアゼリアホールで実施された旧第一学区の合同説明会でした。北野高校のブースで娘が質問したのは、国際交流への取り組みについてでした。その時ケント地区の高校との交換留学生という話を伺いました。

そして入学後まもなく、交換留学生の受け入れの募集に出会いました。娘もそして家族もええんちゃう・・・というノリで受け入れることを決定。皆が家の片づけを何とか家のことをするとか言うことだったのですが・・・フルタイムで働く母である私もいささか考えが甘かったかもという思いにとらわれたのが受け入れの一週間前あたり。

受け入れのことを友人が聞いて、反応は二通り。わぁーすごいね、良い経験できるね！もう一方は、えっ大変そう、私はようせん。

しかし、実際ホストファミリーになってみて8日間という短い間でしたが貴重な体験をすることができました。

まず、家族以外の人と共に生活をするというのは初めての体験でした。しかし、家族皆がそれぞれ Bonnie の事を気遣うものの、ごく自然に迎え入れていたことに驚きました。

夫は Bonnie にお好み焼きの作り方を指導しながら一緒に焼いていました。

また弟は Bonnie と一緒に Wii をしていました。Bonnie はまず似顔絵作りから始めましたが、とても慣れているようであっという間に弟の似顔絵を完成。自分の似顔絵には、ほくろまでつけていました。

大学生の姉も、アルバイトやサークルを調整して妹と共にプリクラをとったり、買い物に行ったり、一緒に浴衣を着て楽しんだりしていました。

ホスト役の娘と姉が Bonnie と話をできるので、母である私はとても安心。で、家事と仕事をしている忙しさを言い訳に彼女とほとんどコミュニケーションをしないまま過ごしてしまいました。それが今になって残念でなりません。私の勤めている会社では中国に工場をつくる関係があり、また社員の一人が中国の方ですので、昨年より朝礼の際、中国語レッスンを数分間しているのです。丁度 Bonnie が中国系アメリカ人だと聞いていたので、起きて来た時には中国語でおはよう（ザオシャンハオ！）と言おうと心の中で決めていました。ですが、もしそれ以上話しかけられたらどうしよう？とか思っている間に一度も声をかけることができませんでした。（Bonnie は日本語も上手だったのでそういう心配は必要なかったのですが・・・）

Bonnie はお鮎も大好きで回転寿司に行ってみたいということで、初日に回転寿司を食べに行きました。そして何が食べたい？と聞くと翌日はお好み焼き、その次の日はやしそば。その中で色々何がいいか考えながら献立を決めました。Bonnie は好き嫌いがそんなに無い様で、また刺身とかが好きだったのでとても助かりました。ただ、もずく酢を出した時は最初変な顔をして、少し食べてみたらという声で少し口にしましたが顔をしかめてしまいました。また、最終日に手巻きをしました。その時は巻くのが面倒だったよ

うでほとんどお刺身として食べていました。

学校も忙しいようでしたし、放課後も忙しいようで、どうしても夜寝るのが遅くなりそれが気になりました。と言うのも、最初夫が就寝時刻と起床時刻を尋ねた時、21 時に寝て、朝 7 時に起きるということだったからです。帰ってくることが 21 時位になることもあり、また朝は 6 時過ぎには起きないと学校に間にあわないのです。遅くとも 7 時過ぎには家を出て電車に乗らなければなりませんでした。疲れているんじゃないかということも気になりました。ですから帰ったらまずシャワーをしてもらい、それから食事。できるだけ早く休んでもらうようにしていました。

最後の土曜日は、姉以外の家族全員で奈良まで行き、大仏をみたり、鹿と触れ合ったりしました。その後姉と合流し、女の子三人で買い物をしたり楽しんだようです。私たちは先に家に帰って食事の用意をしていたのですが、とてもハイテンションで三人が帰宅しました。それから浴衣を着て記念撮影。夫と弟も甚平をきて 5 人で撮影もしました。食事も浴衣で。最後の日に皆揃って食事ができ楽しく過ごせたことが、とても良かったなぁと印象に残っています。

今回初めてホームステイの受け入れをすることで Bonnie と共にいろいろな経験ができたこと、そして家族の素晴らしさを再認識できたことは本当に貴重で素晴らしい体験でした。

これからまた色々な人と出会うことがあると思いますが、もっとフランクにコミュニケーションをとって気持ちを伝えあうことができるようになりたい、またなあってほしいと心から思っています。

こんなに素敵で得難い経験はホームステイを受け入れたことによって得られたことです。また、他のホストファミリーの皆さんとも交流をもてたこと、そしてこれからも交流できる事も大変嬉しく思っています。いろいろと助けてくださった方々、先生方、本当にありがとうございました。

2 Cory & Oさんご家族

Cory と 1 週間を過ごして

1 年 4 組 O.A さん

Cory と過ごした 1 週間は私にとって、かけがえのないものになりました。

1 週間という短い期間の中でしたが、たくさんの思い出ができました。学校 1 日目の月曜日には留学生全員を呼んで Welcome Party をしました。水曜日には Bonnie と Sarah と女子テニス部の人たちと、木曜日には友達を呼んで一緒に花火をしました。Cory の住んでいるところでは、年に 1 回しか花火ができないということを知ってとても驚きました。みんなも積極的に Cory に話しかけてくれたりして、Cory も楽しそうにしてくれて私もとても嬉しかったです。金曜日にも留学生とホストでカラオケに行ったり、週末も観光に行ったりして、本当に忙しくて Cory も大変だったと思います。でも Cory は日本のことにたくさん関心をもってくれて、私もそこからパワーをもらいました。

最初はネイティブの発音についていけなかったり、緊張したりして、Cory がたくさんしゃべりかけてくれているのに全然返せなくて、これから 1 週間大丈夫かな、と不安に思ったりもしました。でも、Cory がゆっくり話してくれたり、難しい単語を簡単な言葉に置き換えてくれたので、私も少しずつ話せるようになりました。もちろん、ちゃんとした英語ではありません。Cory が私の言いたいことを読み取ってくれました。私はせっかく Cory も私に合わせてくれているんだから、もっといっぱいしゃべろう、と思い、下手くそな英語ですが、たくさんしゃべるようにしました。すると、ずっと Cory と一緒にいて英語で話していたので、クラスメイトたちと話しているときに自分の話したいことを頭の中でとっさに英語に変換しようとするクセがついてしまって、会話につまずくことが何度もありました。しかし、それだけ英語とたくさん触れ合うことができてとてもいい経験になりました。

Cory と話したことは Cory が通っている学校のことや、自分の家族のことなど身の回りのことが多かったように思います。アメリカと日本の違いに驚くことが何度もありました。学校の行き帰りにも「あれは何?」「アメリカでは・・・」と 1 つ 1 つ説明してくれ、改めてアメリカってすごいな、と思うことが何度もありました。マクドナルドの話には、本当に驚きました。

もっと Cory のことや Cory の住んでいるところ、アメリカについて知りたかったのに、1 週間はあっという間に過ぎてしまいました。でも、この 1 週間は私の中で大きな意味のある 1 週間になったことは疑いありません。本当に Cory からは、たくさんのものをもらいました。Cory 本当にありがとう。そして、受け入れを許してくれた家族、Cory と関わってくれたクラスメイトや仲間にたくさんのありがとうを言いたいです。

〇さん（保護者）

娘にホストファミリーをしたいと相談を持ちかけられた時、私はとても迷いました。娘の希望は、できる限りかなえてあげたいと思います。しかし、私の仕事は不規則で、帰りが遅くなる日が週に3日あり、当然、夕食の準備は無理です。そして、私を含め家族は、ほとんど英語を話すことができません。ホストファミリーを引き受けたとしても、娘にかかる負担は大きいでしょう。また、部屋をひとつ準備しなければなりません。問題点をひとつひとつクリアして、というよりは最後は開き直りだったのかもしれませんが。私たちはホストファミリーを引き受けることにしました。

私たちにとって、ホストファミリーは初めての経験でした。不安でいっぱいの私たちには、過去の日記(今までにホストファミリーを経験した方がつづったもの)が貴重な道標となってくれました。Cory は日系4世ということだったので、少しは日本語が通じるのではないかと甘い期待を持っていました。しかしそれはすぐに音をたてて崩れていきました。そして私たちは英語が苦手であっても使わざるを得ない状況に追い込まれてしまったのです。事前のメールで、Cory は好きではない食べ物がたくさんあるということがわかっていました。そして阿武野高校のホストからの引き継ぎでは、主に食事に関して詳しく説明がありました。このとき Cory は、親しく日本語で話をする私たちに不安と恐れを感じていたそうです。日本語が理解できないため、私たちの話している内容がとても気になったそうです。もし私たちが逆の立場であったとしても、Cory と同じように不安を感じたと思います。そしてこの引き継ぎにおいて一番驚いたのは、Cory が朝から晩まで一日中グレープファンタを飲んでいたという事実です。我が家では、普段の食事ではお茶かお水を飲みます。おやつにジュース類を買うとしても、炭酸飲料でないものを選びます。それがグレープファンタ！？アメリカの家庭では、食事のときはジュースを飲むことが普通なのかもしれないと思いました。私たちは、途中で買い物をして家に戻りました。もちろんグレープファンタも買って。このとき弟は密かに喜んでいました。弟もまたグレープファンタが好きだったからです。

翌日、私たちは週末にどこに遊びに行くかを決めるためにインターネットを使いました。そのとき、私たちは非常に有益なサイトを発見しました。翻訳サイトです。試しに簡単な文章を英語に翻訳してみました。正しいような気もするし、おかしいような気もするし・・・よくわかりませんでした。それを見ていた Cory は、突然たくさんの英語を打ち始めました。手元を見ずに、しかもものすごい速さで！！そして翻訳。あっという間に英語が日本語に訳されて表示されました。その日本語は漢字がたくさん使用されたむづかしい文章でした。意味不明な部分もありましたが、70%くらいは正しいのかな

と思う文章でした。そして、Cory の言いたいことはよくわかりました。グレープファンタ以外にも好きな飲み物があるということ。また、阿武野では、一緒に買い物に行く機会がなかったため、そのことを理解してもらう手段がなかったということ。彼らはいつもグレープファンタをすすめてくれたし、Cory 自身グレープファンタが好きだったから、断ることをしなかったそうです。私たちはCoryのおかれた状況がとてもおかしくて大笑いしました。また、そのことを必死で私たちに伝えようと努力している姿もなんだかおかしくて・・・さらに笑い転げました。いつのまにかCoryまで笑い始めました。そして、このことがきっかけで私たちはCoryと親しくなったような気がします。時間が経つにつれて、彼の優しさや気配りなどがわかるようになりました。彼自身、gentleであるように努力しているそうです。この言葉を聞いたとき、彼のご両親は立派な方なんだろうと想像することができました。

夕食後はたくさん話をすることができました。家族のこと、学校のこと、好きな女の子のこと、そして日本とアメリカとの違いなどなど。私たちの就寝時間は毎日12時を過ぎていました。さぞかし、学校では眠たかったことでしょう！

娘は一生懸命正しい英語を話そうと努力していました。しかし、何十年も英語から遠ざかった生活を送っている私には、到底正しい英語を使うことは不可能です。日本で生活していて、この時ほど英語の必要性を実感したことはありません。コミュニケーションをとるために電子辞書、紙、ペン、パソコンは必需品となっていました。娘は今まで学校で習ってきた知識を総動員しても、思ったことを英語にすることのむづかしさ、native の話す英語の聞き取りにくさ・・・問題山積み！と感じたようです。また、生活習慣や言葉の違いはあっても、お互いに思いやる心を持てば、理解しあえるということを実感したのではないかと思います。

弟においては、英語が苦手で、英語ができなくても日本で生活できるから、英語の勉強をする必要がないと豪語していました。しかしこの1週間で、少なくとも英語を勉強する必要性は無くはないと思っているはず。Coryとおしゃべりができなかったことを非常に残念に思っていたのだから。そして、一緒にテレビゲームをして楽しく過ごすことができ、Coryのことをお兄さんのように慕っていたのではないかと思います。Coryがアメリカに帰ると、とても淋しがってメールを送るようになりました。今では、Coryは弟のメル友です。二人はお互いに、英語と日本語の勉強をしながらメールをしています。またいつか会える日が来ることを、私たちは心から願っています。

3 Connor & A君ご家族

ホストファミリーを希望したキッカケは母のすすめだった

2年2組 A.T君

ホストファミリーを希望したキッカケは母のすすめだった。募集をみて「これ、やってみたら？」と言われたので多少面倒だったが「ま、いっか」程度のノリで申し込んだ。今から思うと恥ずかしいことだが。

初めて会える日少し緊張した。というのは、正直英語はできない教科に分類されているのに、この先一週間ちゃんと英語で会話できるのか!?という不安があったからだ。しかし、実際に会ってみると、とりあえず単語並べて伝えようと頑張ったらなんとか伝わるのが分かってほっとした。苦手な聞き取りの方もゆっくり言ってもらったらなんとか理解できたので「こんなもんか」と思った。そのうち話がはずんできて、英語で話すという動作に楽しさを覚えてきた。一週間のうち、Connor と話すとき以外でも、いつのまにか普通に友達と英語で会話もしていた。(笑)

とにかくこの一週間は楽しかった。学校以外の行動で言うと、カラオケに行ったり、花火をしたり、友達を連れて家でお好み焼きパーティしたり... etc.行動を共にして楽しんでいるうちに、人間というのは自分以外の他の人間とつながりをもつ事が好きで、楽しむものなのだなあと思った。そのつながる手段が日本語であれ、英語であれ、何語であれ関係ないのだ。だからお互いにつながろうとするから自分の言いたいことがたとえ下手な英語でも伝わるんだと思った。日本語で話すかどうかということのない会話でも、英語にして会話してみると、なにか不思議な喜びを感じられる。それは相手に自分の言いたいことが伝わったことで、人とつながりを持てたから生まれたものだとは僕は思った。そういう意味で新たな英語の一面も知ることが出来た。

この一週間は 驚き、発見の連続で本当に楽しかった。来てくれた Connor にも大感謝。ホストファミリーを申し込んでよかったと思う。本当にあっっっという間だったがたくさんの貴重な体験ができたと思う。Gracias!! (スペイン語ですがアメリカでは使うらしい)

「わくわく、そわそわ、ばたばた、ほのぼの！」

A君(保護者)

留学生のホストは「やってみる！」という息子の一言で決定したはじめての経験です。

5人家族の一人一人がそれぞれの課題や事情をあれこれかかえる我が家ですが、「今しかできない事」はそれだけで大切にしたい、と思いきって挑戦してみることにになりました。実質的には、うまくできるか、十分にできるか、喜んでもらえるか、まったく自信はない状況でしたが、きっと一石二鳥以上のまたとない経験になるだろう！ということだけは、疑いなく、確信していました。

ホストファミリーとしての我が家のコンセプトは、「できる範囲でなるべくたくさん異文化を経験してもらおう」ということでした。これは反対に、もし自分の子どもがホームステイさせてもらう機会があれば、どうしても受け入れ難い事以外は、まずはチャレンジさせてみてほしい、好きか嫌いか、できるかどうかは、経験してからわかればいいと考えたからです。ですから食事に関しては、あまり自分から食べる機会がないのでは？と思われる食べ物も敢えて1度はテーブルに並べてみました。納豆、冷奴、卵豆腐、お味噌汁、筑前煮、お漬物、お刺身、お好み焼き、やきそば、てんぷらうどんなど・・・。初めての食べ物については気に入らなくても残さなくてすむように、食べられそうな量を自分で決めてもらって、お皿に取り分けるようにしました。幸い Connor はほとんど好き嫌い無く、ひととおりは頑張って(?)きれいに食べきっていました。コーラよりお茶、パンよりご飯、お弁当箱が珍しいのか3日間はお弁当と水筒を持って行き、日本の日常を堪能しようと試みているように見えました。ただ、おすし屋さんでイカを食べているとそれを見た Connor のきれいな瞳の奥が「ギョエッ!!!」と驚いているのはわかりました！（生のイカは感覚的に食べられないようです）

土曜日には家族で奈良に行きました。車で行く方が楽で速くて安いのですが、ここでも、アメリカではめったに乗らないという電車を、敢えて日本の通常の交通機関として経験してもらおう、日本の電車内を観察するのも興味深いかな？と思い、私たち家族も久しぶりに近鉄奈良線に乗りました。せっかくだから・・・と、五重塔、東大寺、法華堂、二月堂、と歩き回り、Connor は湿度にめげそうになりながらも鹿を撫でまわし、心から動物を愛している様子でした。

英語のコミュニケーションについては、息子も私も同様に自信は全く無く、無い袖は振れないのと同様、無い知恵は絞れず、スムーズに理解できないことも多々ありました。でも、気持ちがあれば通じる！と信じて楽しくおしゃべりができたのは、お互いに相手を思いやって言葉をつなげたからだと思います。実際、Connor はこちらが話すときは目だけでなく、顔だけでもなく、上半身からこちらに向かい合うくらいの真摯な姿勢で、とつとつとした英語に耳を傾けてくれ、話をしやすいようにあいづちをうちながら次の単語が出てくるのを待ってくれます。なかなか普段の家庭でできない態度ですが、これを

機会にこの経験を我が家に取り入れ、家庭における、聞くコミュニケーションについてあらためて見直してみたいと思いました。

ただやはり、何か一つの話題について説明を聞くと、それについての基本的な知識や文化的背景の理解がないと、たとえ単語を知っていたとしても理解するのに時間がかかったり、よくわからなかったりで、もっと幅広い知識があれば、より内容の濃い会話がより楽しくできるのに！と、息子と Connor の会話を聞いていてあらためて思いました。これはこの国際交流に限ったことではないのですが・・・。「幅広い知識や経験、周りへの思いやりが、やはり大切」と、この1週間で実感しました。

Connor は時間に正確で周囲にさりげなく気配りができ、礼儀正しく、どちらかといえば日本人的で非常に上品な行儀作法を身につけていました。それは自立した大人になるためにご両親のきちんとした躰によるものだということと、たくさんの愛情をたっぷり受けて育ってきたということが日を過ごすうちにはっきりわかりました。たった7日間で日ごろの家庭での日常があらわれるということです。なんということでしょう！！我が子はよその家庭ではいったいどんな風に映るのでしょうか？あな、恐ろしや！！これが最大の“ Oh! My God!!! ”でした！！

私たち家族は誰もアメリカを訪れたことはなく、知識は多くありません。「それでも Connor たちの住む地域はアメリカの中でも裕福なエリアであろう、同じアメリカでも全く違う生活をする地域もあるだろうけれど多民族国家のアメリカのこと、ひとつの国の中での生活文化の違いをみることがあれば、もしかしたらもっと驚くようなことがあるかもしれない・・・と感じました。」とはいっても、私たちは世の中のすべての人々と接することはできません。だからこそ、新たな友人と出会うチャンスがあれば、その出会いを大切にしていきたいと思うのです。

すべてを総じて、結果的には得たものは一石五鳥以上！忘れがたい素敵な思い出つき！でした。家庭内では、まず、目に見える点として、できる範囲で、限られた時間の中で、とにかくにも家中の掃除をしなくてはならなくなり、多少なりとも家中が片付いたということです。初対面の方が家族同様に暮らすということで、家の中を総点検する機会に恵まれました。次に少しでも会話ができるようにと、ホストファミリー導入編として時折子どもたちとの会話に、母のまったく中途半端な英語をまぜて練習してみました。それぞれに苦労しながら、とりあえず何か話そうと楽しく実地練習しました。息子の友達も遊びに来てくれて一緒に食事をしたことで、「A 君がホストじゃなかったらこんなに身近に留学生を感じることはなかった」と言ってくれたのは本当に嬉しいことでした。ホストファミリーの周りから「小さな国際交流」というよりは、新たな人のつながりが

一滴、輪になって広がる実感がありました。

最大はやはり Connor を通して、私たちも、生活と文化の違いを感じることができたことです。生活を共にすることで小さな発見や喜びや驚きがたくさんありました。もちろん戸惑うこともありましたが、その経験こそがこの交換留学の意義のひとつだと思います。戸惑った時、間違ったと思った時、迷った時、何をどのように考えて行動していくか、自分なりの判断力を大人の年齢にある私たち自身も磨きたい・・・というのが理想です。

今回のホストファミリーの経験は、これから成長していく息子、友達、Connor、私たち家族にきらきらした素敵な思い出と、後に自分なりの考え方を確立してゆく礎石のひとつを静かに置いていきました。今思い出しても、現実のアメリカの高校生が我が家で過ごした事は夢だったのでは？と思うくらい楽しく慌ただしくあっという間でしたし、我が家ではひと月経った今でも「Connor は～だったね、あの時こう思ったかもしれないね」など、よく話題にあがります。来る前は、わくわく、そわそわ、ときどき、1週間は、ばたばた、うきうき、はらはら、帰国してからも、時折思い出しては、しみじみ、ほのぼの、と、まさに1度来て3度味わえたのでした。

Connor も息子もお友達もみんな、あと5～6年の内には社会に出て行く予定になります。これから彼らの未来にはたくさんの選択肢があるけれど、どの道を選んだとしても広い視野と、深い思慮と、強い意志で自分の乗る船の舵取りを、一つ一つ自分で選んでいって欲しいと願っています。横着な私が育児日記のごとく記録をとることによって、そしてこのように親子で文字を並べて1週間を反芻することで、より大切にしたい思い出を再確認できました。他のホストファミリーの皆さんや先生方、留学経験者の3年生とも、少しですが話す機会もあり、本当に今思い出すと、宝石箱を開いたような、光り耀く1週間でした。このような機会を下さったみなさんに心から感謝の気持ちでいっぱいです！！ありがとう！！

4 Sarah & Kさんご家族

サラが教えてくれたこと

2年3組 K.Wさん

ホストファミリーをさせて頂いて、学んだことがあります。まず、自分がいかに日本

のことを知らないかということです。

大阪城に観光に行った時のことです。私は、大阪に住んでいながら一度も大阪城へ行ったことがありませんでした。「大阪城の屋根って緑やねんなあ。」とひとりのんきに感動していると、サラに、「あなたは日本人じゃないみたい。」と笑われてしまいました。もちろんそれはジョークなのですが、その時私は、自分が日本のことをあまりに知らなすぎることに気付いたのです。

思えば私は、「英語が好きだ。外国のことをもっと知りたい。いつか留学したい。」と言いながら、日本のことにあまり関心がありませんでした。これからは、もっと日本のことについてしっかりと勉強していきたいと思います。

次に、日本とアメリカの生活の違いです。

朝のラッシュの電車に乗って通学したり、部活帰りにプリクラを撮ったり、テニス部で淀川で花火をしたり、友達とカラオケで熱唱したり…。そういった私たちにとってごく普通の学生生活も、どうやらサラにとっては新鮮で新しい毎日だったようです。日本では普通だと思っていた日常が、実はアメリカでは違う。この驚きは、実際ホストをしてみないと味わえません。反対に、「アメリカの学生はどんな一日を過ごしているのかな？」と知りたくなりました。

私は今回の体験で、日本とアメリカは文化や生活が違うこと、またその違いを理解し、異文化の魅力に気付くためには、まず自国の文化や歴史を学び、大切にしていくことが大事だと気付きました。「いつか必ずアメリカに行って、Sarah に会いたい！」という夢も出来ました。私は、ホストファミリーとして今回学んだことを生かせるよう、これからの生活につなげていきたいです。

最後になりましたが、私に素晴らしい経験をさせてくれた、ケントの皆様、北野の先生方、クラスメイト、テニス部のみんな、ホストのみんな、そして家族に、感謝の気持ちでいっぱいです。

どうもありがとうございました。

楽しかったサラとの日々

Kさん（保護者）

娘の強い要望と、私が昔ホームステイしたのが同じシアトルであったという偶然が重なり、今回、サラのホストファミリーを引き受けさせていただきました。

サラは日本語が少し話せ、又 9 月から大学の日本語専攻への入学も決まっているとのことで、根っからの『日本大好き少女』でした。

メールのやりとりで「たこ焼きが食べたい」と聞いていたので、初日の夜はたこ焼きとピザボールを作り、「おいし～い、おもしろ～い！」と言いながら、写真やビデオを撮っていました。サラが「たこさん、たくさん！」と、シャレを言った時は大笑い。また、私が「お皿とって。お皿運んで～」と言う度に「オー サラ！って呼ばれてる気がする。」と笑っていました。

月曜からの 1 週間、駅まで送迎しましたが、「今日の花火きれいだったよ。カラオケめっちゃ楽しかった！」とサラが車内で話してくれるので、毎日それを聞いてホッとしたものです。「北野高校はきれいで大好きだけど、勉強が大変なのと規則が厳しい。真面目な人が多い。」と、しっかり自分の意見を言っていました。

アニメクラブの部長をしていて、漫画を描くのが上手で、ブックオフには 2 回も通い、両手で持ちきれないほど漫画や雑誌を買っていました。サラの満面の笑顔を見て、日本のサブカルチャーがアメリカで受けている事や、サラが目的をしっかりとって日本に来たことがよく分かりました。

奈良に家族で行った時は、娘が建造物についての英文を読んだらサラが解説してくれたり、私たちの英会話や単語の使い方を訂正してくれたり、まるで娘につきっきりの英語の先生と 1 週間生活している様でした。反対に、「もっと日本語を教えてあげたら良かったかな？」と反省もしています。

そして帰国後、サラからたくさんの写真が P C に届き、「またもや日本に行きたいだよ！」とメールが来た時が何より嬉しかったです。

ハニーズのセールでたくさんワンピースを買っていたサラ。海遊館ではマンボウが気に入りのサラ。サラが帰ったあとの我が家はガランとして、とても寂しかったです。

又日本に来た時、会えたらいいな～と、心から思っています。

第 4 章 北野高校を訪れて

(the impressions of the international Exchange Program in July, 2009)

The questions they are requested to answer are as follows:

- (1) Did your Kitano family accommodate all of your needs?
- (2) Would you prefer to stay with one family for your entire visit or not?

- (3) Though it was a short stay, what did you enjoy most with your Kitano host family?
- (4) What did you think of Kitano? What did you enjoy or what was difficult to do at Kitano?
- (5) Do you have any suggestions that could help to improve our exchange program?

Carl Bradberry (teacher of English at Kentlake H. S.)

Q1) At Kitano, I stayed with Ms Takakura for two nights, two nights at the Plaza Hotel, and I will stay one night with Mr. Sagawa. Ms Takakura's hospitality was phenomenal. I had a fantastic time chatting with her and her husband and eating vegetables from their garden. They really treated me like a king! I haven't yet stayed with Mr. Sagawa, but I'm sure we'll have a wonderful time. I must say, as appreciative as I am to my hosts, for an independent-minded traveler like myself, staying at the hotel is not negative in the slightest, but a great chance to do my own thing, and the amenities are great. I'm sure it is an added expense for the school, though.

Q2) Hm, I'm not sure about this one. Packing up and carrying luggage around a lot is a little inconvenient, but at the same time, it's great to get an overview of several different families, to get a fuller picture of Japanese life. I think at least two family visits might be optimal.

Q3) Well, there is just so much to talk about with Ms Takakura's hospitality. I will single out the food: I've greatly enjoyed Japanese cuisine generally, but the food at her house was just so delicious! And the organic vegetables and herbs from her garden were the crowning touch!

Q4) Kitano seems like a very high-quality school. All of the students and staff were extremely friendly and welcoming. I personally loved participating in the English classes and helping with the subtler nuances of our difficult language; I could do that forever! Attending classes in Japanese was much less interesting and useful for me, since unfortunately I have no Japanese

Q5) I think the program is really excellent. As I mentioned, perhaps teachers could be made use of more in English classes, but then some may be more

interested in their particular field (I am of course an English teacher). Be proud of the fact that no other suggestions come to mind!

I have done a fair amount of world travel, but this was my first time in Japan, and it was an extremely positive experience. I love Japan! Although the sights and the food were exceptional, what really made this trip so great was the people. Everybody seemed genuinely warm, caring, and interested. I think all of us Americans on the trip learned much about Japanese culture and life, and about the world and its people, and so ourselves. I sincerely hope that any Japanese people who visit America receive such hospitality. I am very proud to be a part of this exchange program, and will continue to promote it at Kentlake, and in Kent, and Seattle. I have made and continued many friendships here, and I hope I can see many of you again, sooner than later. I offer a hearty thank you to the staff and students of Kitano (and Abuno) High School, and especially to my hosts, and the exchange coordinators. Please continue to learn and love all your days.

Connor Smith (student at Kentwood H. S.)

Q1) My family at Kitano High school was very nice and they were always willing to answer any and all of my questions the best they could. We even had to use the electronic dictionary some of the time in order for me and them to get our statements across. But all in all they were very hospitable and always treated me with respect.

Q2) This is a difficult question for me because there are good outcomes to staying with one host and there are some outcomes that are less than convenient. Like staying with one family is wonderful because you have more time to bond and get to know each other and converse about things that maybe different or similar to America. The less convenient part about only staying with one family is, you don't get to meet different families and you don't experience different schools and how the student body functions.

Q3) what I have enjoyed most is probably going to Karaoke, it sounds like it might be cheesy but it's really fun and a lot of memories are held there. There is nothing like it in America because the only Karaoke we have in America is the kind that are in

bars and all the drunk people get up and sing. I highly recommend going to Karaoke.

Q4) I liked Kitano. The infrastructure was interesting and the student body was even a lot nicer than the student body at my school. I got lost quite a lot in Kitano because I am so confused by the infrastructure. That being the case I think it is the most interesting school that I have ever been to.

Q5) now I think the exchange program is good the way it is but I would like to maybe stay at Abuno for longer than 3 days but other than that the exchange program is fine.

I have done a fair amount of traveling but I have only gone to Mexico, but Japan is by far the best place that I have traveled to in my life so far. The Japanese culture is very interesting and is also a lot of fun. So, any one who hasn't ever traveled abroad should do so. Thank you.

Bonnie Chow (student at Kentwood H. S.)

Q1) My host family in Kitano High School has been very hospitable to me. They all have been very nice and courteous. The room I stayed in was a traditional Japanese room with tatami mat floors. It had an air conditioner along with a table and chair for me to write in my journals, overall it was a very comfortable room. I was able to eat many delicious foods while I stayed there. There was amazing okonomiyaki and yakisoba that I was able to try for the first time. The host family at Kitano were all very nice to me and my host and her sister spoke English very well. Although in some situations I had to use Japanese to communicate, but over all the language barrier wasn't a problem here. At home they would always ask me what I wanted to do or what I wanted to eat, and I would usually think for a bit and then tell them what I wanted. In the end the family has been a great host family.

Q2) Deciding whether or not you would want to stay with one host family or two is a very hard decision to make. If I were to be hosted by one family only, then I would be more attached to them and that way we all would get to know each other better. But then how this exchange program works?

We were to stay with Abuno the first week and then Kitano the second. Because we were to switch hosts, I was sad that I had to leave my host from Abuno but then I got to meet a new family. Either way it is still a hard decision to make. But when I got to Kitano I felt like I had to start over again. Because my Abuno host knew what I had disliked and liked, and so it felt kind of awkward. Although there are the benefits of staying with one host family and getting to know each other better, there is still the great experience of meeting new people. Overall it is still a hard choice to choose whether you want to be hosted by one family or two.

Q3) What I enjoyed most about my host family at Kitano High School is that they knew a lot of English. I also enjoyed karaoke with them too. Our hosts got other hosts together and we all went to a karaoke place. We stayed for about an hour and it was a lot of fun. Everyone was great and we had a great time. We also got to join the tennis club and light off fireworks by a river. We were all able to join in on other school activities here. They all wanted us to join in as much as possible. I am very glad that they wanted us to join them.

Q4) Kitano is a pretty great school. All of the students here have studied a lot in order to get into Kitano. Along with that they all work pretty hard. Along with regular school some take cram school afterwards. Here at Kitano school is everything and in America school is just a pain. I am very surprised that they take school seriously. The only thing that was difficult here in Kitano was that some of the students here know a little English. But over all nothing was really difficult.

Q5) What could improve the program is that we could stay with our host families a little longer. That way we can have more time to spend with them. Another way to improve the program is to have planned activities for all of the hosts and their students to do together. Otherwise nothing else can improve this program.

From this trip I enjoyed many new cultural experiences. I had plenty of great memories to keep with me. My host sister was a great host, we had

some very good times at karaoke. I hoped to have stayed longer here in Japan but sadly we all have to go. But in the later future, I hope to come back to Japan. My time here has been a great and wonderful time. We all got to do many special things. Everyone at Kitano high school has all been very friendly and welcoming. I had a wonderful time at my birthday party that the students gave me. I wished that everything that we do here in Japan can last forever. All of the laughter we had, the many friends we made, the amazing food we got to eat, everything that we got to do we are all very thankful for. I hope to see everyone again soon.

Cory Shiraishi (student at Kentlake H. S.)

Q1) My Kitano family was wonderful. I'll admit it was a little awkward being hosted by a girl, when I am a guy, but it worked out fine in the end. After Abuno, at the exchange, my host mothers talked over a little diary about me and my preferences. To be honest, whenever someone talks about you in a language that you really don't fully understand, it is a little bit intimidating. But after the switch we went to the supermarket, and before I said a word they put grape Fanta in the basket. That became a common occurrence; they would take care of my needs or wants before I even asked. Japanese hospitality by far exceeds the American equivalent. In truth, they were so nice that I feel bad because I didn't bring nearly enough gifts to give them. I feel like I should buy them a new car or something big like that. They deserve it, for putting up with my preferences, which are numerous and annoying. Frankly, I am a really picky eater. The biggest thing here is that I don't like tea. Yet, in Japan, tea is the most common drink. But my family was so accommodating, they bought and served me whatever I wanted. As far as food was concerned, they were very nice. I dislike most foods, American, Japanese, or whatever, so eating everything here is incredibly difficult. They were so kind in letting me eat what I could and not eat what I couldn't. And the room and house were very cool. Japanese homes gave a lot of different gadgets, and although it is childish, playing around with them was certainly amusing. Overall, they were just wonderful to me.

Q2) In truth, I enjoyed staying with two families, because they were incredibly

different. My Abuno family lives in a house, which was rather messy. But my Kitano home is a modern apartment. The entire attitudes of the families were different, and they really only shared one thing: a commitment to great hospitality. After staying with just one host, I had made assumptions about Japanese life, but with my second host I realized that Japanese homes share the same diversity that American homes do. This was a good experience. On the other hand, it seems that as soon as hosting turns into friendship, it is time to leave. That is something that I don't particularly care for.

Q3) The thing I enjoyed most with my family is explaining culture. It is always fun to be talking about differences between America and Japan. It is simple, but it is a lot of fun. I enjoy seeing the awe on the family's faces when I explain something completely foreign. I also love hearing about Japanese culture. I am very intrigued about the way things work, so this was a lot of fun.

Q4) Kitano is an amazing school. From the architecture to the teachers to the students, I really like it. I enjoyed the English classes where we were involved with the students. In some classes we corrected students and talked about culture. In one class we did Japanese and American folk tale skits, and then played an American game called Pictionary. I loved seeing students open up and talk a little. The hardest things were some of the lecture classes. Lectures are boring in English, but in Japanese, where I can't understand anything, they are pretty miserable.

Q5) This exchange program is very good as it is. I think the only suggestion I can offer is to let us pick class. Maybe give us a sampling of each early in the week, and then have open spaces for us to attend calligraphy, arts, music, or different English classes. I think that would make the school hours more interesting at times.

It was always assumed that when I was in Japan, I would use a lot of Japanese and become instantly very good at it. Well, I have gotten better I think, but my time here has made me realize that the purpose of a foreign exchange is not an exchange of language, but an exchange of culture. My teacher once defined culture as everything. Anything. Japan and America are certainly very different countries, and with differences there is an opportunity for growth. I have met a wide variety of people, and with each of them I have had to adapt and learn and find common ground. In this manner, I grow to understand myself, which is a lesson I can take

home to America and through into the rest of my life. When you are at home, surrounded by people who have grown up the same way, it is so easy to find commonality. However, in a foreign country, sometimes you have to look deeper than local news and local sports teams to find that little piece of humanity that binds us all together. Every person is different. Yet beside those differences every person is human. Maybe it is a little Buddhist-like to say it, but we are all a little bit the same. The Japanese are famous for their respect, and now I have grown even more to respect the Japanese. Thank you for an amazing time.

Sarah Noonan (student at Kentlake H. S.)

Q1) My Kitano host family was one of the reasons my trip was so amazing. Not only did the host mother speak near-fluent English, but she was also very helpful in making sure I had an easy transition from America to Japan. Every meal they made for me was delicious, and if there was something that I could not eat, my host mother was more than happy to offer me something else. Also, all members of the family tried to include me in their daily routines, whether it was by discussions at the dinner table, watching anime together, or just lounging around the house.

Q2) As much as I loved being with both families, having two different homes in a foreign country is difficult. As soon as I was used to life in the former household, I had to move on to a whole new environment in the latter home. This made adjusting to a routine very difficult, and at times made me yearn for the ease of living at home in America. However, by living at both households, I was able to develop close relationships to two families who had their own unique differences. This allowed me to truly experience different forms of Japanese life.

Q3) There were many things I enjoyed during my stay with the host family at Kitano. First and foremost, just being able to live in Japan and experience their everyday life was fascinating to me. In the morning we got dropped off at the station and then took a train. I had never ridden on a standing-room-only train, so I was a little overwhelmed at first. One day after school, we got to visit a childhood friend of my host sister's. Visiting another person's home in Japan is very different from in America. My host mother brought a cake as a gift, and then all of us, including the old friend's mother, ate cake in her room. It was very fun!

Q4) Kitano as a high school is simply breathtaking. The campus is beautiful, and

almost appears like its own community with all the different clubs that seem to go on long after school. All the classes seem so advanced, that at first I felt a little uncomfortable. However, all the students were so kind and friendly that soon it was like my own high school back in the states (just in Japanese, of course).

I felt very included at times, being a help both to the teachers and the students. And the culture shock I witnessed in students who knew nothing about American high school life was always amusing. In America, students move from class to class, and we only get five minutes to get there. When it comes to passing times, in comparison, Kitano seemed a lot more relaxed.

On the other hand, some of the classes were quite difficult, and I was unable to comprehend any of the lessons. This was in classes like Math or Japanese, where most of the lectures were in Japanese only. Also, the heat of Japan itself made some classes less fun simply because I was so uncomfortable being there. As my stay increased, however, I became more accustomed and it was easier to deal with on a daily basis.

Q5) For the most part, this exchange has been absolutely perfect. The families were nice, the homes were amazing, and the schools were beautiful. The only thing I wish is that it could have been longer. Although I have felt homesick on many occasions, soon enough that feeling gets replaced by a feeling of sadness, knowing that soon I will leave Japan.

I know I am going to miss my host families once I get back in America. Also, especially for me, this is the last event I will ever do as a high school student. I graduated this last June, so this fall I am going to move on to college. That means this is my last time being in any high school setting as a student. I was initially afraid I would not be able to come this year due to issues with swine flu, cost, and the fact that I am a senior and won't be able to return next year to Kentlake to share my experience in Japan. As such, I am very happy that I had the opportunity to participate in this experience. I have dreamed of going to Japan ever since I was a little girl and so far, this trip has made my dream come true.

When I graduate from college, I plan on either being a translator in Japan or America. Although I was initially unsure about being able to adjust to life in Japan, after this trip, I know that it would be a big mistake not to at least try. My experience in Japan this past week has given me the confidence to aim for my highest dreams and live my life to its fullest.

I will never forget all the people I have met here in Japan. I hope to keep in contact with as many people as possible, so if and when I do return, I will have plenty of friends to turn to. Everyone I met had been kind and friendly, helping me in anyway necessary to make sure I enjoyed my stay in Japan. Thank you all for accepting me into your schools, your lives, and your hearts.